

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「一人一人に合った えこひいきをしよう」



児童養護施設で育った子どもたちは、幼い頃から全て一人でできるように教えられます。しかし、どんなに訓練しても、施設の子どもたちは一般家庭より生活自立が遅くなってしまいます。

そこで、施設のある先生が、「一人一人に合ったえこひいきをしよう」と指導方針を大きく転換しました。子どもの求めに応じていつでも、誰でも快く手を貸すことにしました。すると、それまで一人でできなかった子どもも、どんどん自分でできるようになっていきました。子どもには「自立心」があるため、どんなに手伝っても「自分でやりたい」という気持ちは消えることはありません。「できないときは、いつでもやってもらえる」という安心感や、「どんなときでも、自分は大切にされている、愛されている」という確信がもてると、子どもに「一人でやってみようかな」という意欲が生まれます。

保護者から、「自分のことは自分でできる子どもになってほしい」と相談を受けます。「できなければ愚痴をこぼさず楽しく手伝ってあげてください。～やると甘えてきたら何度でもやってあげてください。その代わりに自分からやったら認めてあげてください。困ったときに助けてくださいと言えることも大事です」と伝えています。他者に上手に依存することは自立に必要な力であり、これができないと、大人になってから一人で悩みを抱え込むこととなります。また、自分が助けてもらった経験があると、困っている人を助けられる人になります。自立とは、一人で何でもできるようになることではなく、最小の支援で自分の力を最大限発揮することです。



とれたて直送便



「上の子に言うてはいけないNGワード」

特別支援教育の扉No.30号で、上の子に対するNGワードを紹介したところ、たくさんの「いいね！」が寄せられました。好評につき、第2弾をお届けします。

【言うてはいけない チクチクワード】

- 1 「お姉さんになったんでしょ。今日から一人でやりなさい！」
- 2 「どうして弟に優しくできないの！」
- 3 「ママが赤ちゃんの世話で忙しいの分かるでしょ、いい加減にして！」



【言うてあげたい ふあふあワード】

- 1 「〇〇くん、タオルたんでくれるから、ママ助かるよ」
- 2 「いつも～してくれて、パパはうれしいよ、ありがとう」

できるだけ上の子を優先します。一日一回、数分でよいので、のんびり抱っこをしたり、じっくり話を聞いたりするなど、愛情を伝える時間を設けてたっぷり甘えさせましょう。

甘えさせる → 子どもの都合を優先して可愛がること
甘やかす → 親の都合を優先して可愛がること